

十和田市事務事業評価シート

【事務事業の概要】

整理番号	③-26	実施計画番号		事業開始年度	平成27年度
事務事業名	迅速かつ効率的な除雪体制の実施			事業終了年度	
担当課名	土木課			事務の種類(選択)	自治事務
根拠法令等	十和田市協働による除雪の推進に関する条例	関連事務事業			
背景や経緯等	除雪パトロールと除雪業務を一括して民間委託することにより、迅速かつ効率的な除雪体制の実施。				
事務事業の目的	安全・安心な冬道の確保をするため。				
実施状況	現在検討中。				

【人件費の推移】

		26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
正職員	従事者数(人)	6	6	6
	活動日数(日)	60	60	60
	人件費(千円)	12,960	12,960	12,960
正職員以外(選択↓)	従事者数(人)	11	11	11
	活動日数(日)	60	60	60
期間業務職員	人件費(千円)	3,894	3,894	3,894

【事業費の推移】

		26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
事業費合計(千円)		130,174	250,000	250,000

【指標】

活動指標	活動指標名①		建設業協会との会議回数			
	計算式等		単位	26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
			回		3	3
	活動指標名②					
	計算式等		単位	26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
成果指標	成果指標名①		除雪パトロールと除雪業務を一括して民間委託する			
	計算式等		単位	26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
			目標値		方針を決定	委託に伴う準備
			実績値		方針を決定	
			達成度(%)		100%	
	成果指標名②					
	計算式等		単位	26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
		目標値				
		実績値				
		達成度(%)				

十和田市事務事業評価シート

【担当課による検証】

ポイント		検証(選択)	評価	点数	合計	検証の理由				
妥当性	①	市民ニーズ等から見る妥当性 市民ニーズや時代潮流の変化により、事務事業の役割が薄れていないか	A 薄れていない B 幾分薄れている C 薄れている	A	2	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr style="background-color: #ffffcc;"> <td style="text-align: right;">存在意義の見直しの余地</td> <td style="text-align: center;">0 / 4</td> </tr> <tr> <td colspan="2">冬道の確保は、通勤・通学等の市民生活や地域経済活動維持の観点からも重要な対策である。</td> </tr> </table>	存在意義の見直しの余地	0 / 4	冬道の確保は、通勤・通学等の市民生活や地域経済活動維持の観点からも重要な対策である。	
	存在意義の見直しの余地	0 / 4								
冬道の確保は、通勤・通学等の市民生活や地域経済活動維持の観点からも重要な対策である。										
②	実施主体である妥当性 行政が実施することが妥当か(民間と競合していないか)	A 妥当である B あまり妥当ではない C 妥当ではない	A	2	4					
有効性	③	活動指標から見る有効性 活動指標の実績は、順調に推移しているか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない	A	2	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr style="background-color: #ffffcc;"> <td style="text-align: right;">成果向上の余地</td> <td style="text-align: center;">0 / 6</td> </tr> <tr> <td colspan="2">計画的に推移している。</td> </tr> </table>	成果向上の余地	0 / 6	計画的に推移している。	
	成果向上の余地	0 / 6								
	計画的に推移している。									
④	成果指標から見る有効性 成果指標の目標達成状況は、順調に推移しているか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない	A	2	6					
⑤	事務事業の見直しの余地 成果を向上・安定させるため、事務事業の見直しの余地はあるか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	A	2						
効率性	⑥	事業費の削減の余地 事務手順の見直しや正職員以外での対応により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A	2	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr style="background-color: #ffffcc;"> <td style="text-align: right;">コスト削減の余地</td> <td style="text-align: center;">0 / 6</td> </tr> <tr> <td colspan="2">砂利道の舗装化等、効率的かつ効果的な除雪を行い、また、民間委託によるコスト縮減については今後検討していきます。</td> </tr> </table>	コスト削減の余地	0 / 6	砂利道の舗装化等、効率的かつ効果的な除雪を行い、また、民間委託によるコスト縮減については今後検討していきます。	
	コスト削減の余地	0 / 6								
	砂利道の舗装化等、効率的かつ効果的な除雪を行い、また、民間委託によるコスト縮減については今後検討していきます。									
⑦	他の事務事業との統合・連携 類似又は関連事業との統合・連携により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A	2	6					
⑧	民間委託等 民間委託・指定管理者・PFI等により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A	2						
公平性	⑨	受益の偏り 現在の受益は公平か。特定の個人・団体に受益が偏っていないか	A 偏っていない B 多少偏っている C 偏っている	A	2	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr style="background-color: #ffffcc;"> <td style="text-align: right;">受益者負担適正化の余地</td> <td style="text-align: center;">0 / 4</td> </tr> <tr> <td colspan="2">冬期間の市民生活の安全・安心な暮らしを確保するため除雪事業を実施している。</td> </tr> </table>	受益者負担適正化の余地	0 / 4	冬期間の市民生活の安全・安心な暮らしを確保するため除雪事業を実施している。	
	受益者負担適正化の余地	0 / 4								
冬期間の市民生活の安全・安心な暮らしを確保するため除雪事業を実施している。										
⑩	受益者負担の見直しの余地 現在の受益者負担は適切か。見直しの余地はあるか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	A	2	4					
現在の適性					20 / 20	改善の余地	0 / 20			

【点数化による検証】

当該事業の現在の適性は20点中 **20** 点です。

当該事業の改善の余地は20点中 **0** 点です。

【担当課長による評価】

当該事業の今後の方向性(選択) ※事業終了年度がH27の場合は回答不要 ⇒

現状のまま継続

方向性の理由 ※事業終了年度がH27の場合は回答不要

除雪パトロールと一体化した除雪委託業務への体制実施に向け検討継続

今後の具体的な取組方策と狙う効果 ※事業終了年度がH27の場合は、『事業を実施したことにより今後見込まれる効果』を記載してください。

除雪パトロールと除雪業務を一括して民間委託することにより、迅速かつ効率的な除雪体制の実施し、冬期間の市民生活の安全・安心な暮らしを確保する。